



「ピュアパプリカ」を全国へ 「ふるさと名物応援宣言」で支援



▲本市のパプリカ



▲川崎町の藤江氏魚楽園



▲芦屋町の芦屋鋳物

11月29日、市内で生産されるパプリカ「ピュアパプリカ」を田川名物として全国にPRし、地元事業者などを支援するために「ふるさと名物応援宣言」を行いました。

ふるさと名物応援宣言とは、市町村が「ふるさと名物」を特定して宣言を行い、地域をあげた情報発信や取り組みを推進するもので、平成27年度からその制度が始まりました。この宣言を行うことで、「ふるさと名物」を活用した商品・サービスの開発や販路の拡大などに国の補助金を活用することができるようになります。また、地域ブランド化の担い手を育成する事業へ優先的に参加でき、中小企業庁のサイト「ミラサポ」で全国に向けPRすることが可能です。

本市では、11月29日に「パプリカの特長を活かした商品群」をふるさと名物として、福岡県内で初めて応援宣言を行いました（川崎町

（藤江氏魚楽園）と芦屋町（芦屋釜など芦屋鋳物）が同時に宣言。

市内で生産されているパプリカは、肉厚でシャキシャキとした食感とみずみずしさが特色。平成16年から市内での栽培が開始され「ピュアパプリカ」のブランド名で、現在は1軒の農家が約22アールのハウスで年間約18トンを生産しています。収穫の時期には、JAたがわ直売所「来てみんなかながわ」などで販売され、好評を得ています。

二場公人市長は「この宣言をきっかけに、パプリカ生産の担い手育成やブランド化を進めていき、全国に売り出して産業振興につなげたい」と抱負を語りました。

2月中旬のドイツは、何といたってもカーニバル！

クリスマスと正月を過ぎると、ドイツには「Kärnival」の季節がやってきます。

第5の季節とも呼ばれるカーニバル・シーズン。始まりこそ11月11日ですが、2月中旬頃にクライマックスを迎え、最後の1週間は街中がリアルにおまつり騒ぎ。今回は、私の故郷ケルンのカーニバルを紹介します。

シーズン最後の1週間は「Jecken」と呼ばれるさまざまな仮装をした人たちが、ケルンで作られた伝統的なビールである「Kölsch」を飲みながらカーニバルを楽しみます。ドイツ国内でも最大級のカーニバル・パレードである「Rosenmontagszug」では、およそ1万2,000人が山車に乗り、300トンもお菓子

や花が見物客に投げられます。パレードの長さなんと約8kmにも及び、この期間中は、国内外から100万人以上の観光客が訪れ、大変な盛り上がりを見せます。

ドイツの三大カーニバルのひとつに数えられるケルンのカーニバルのキャッチフレーズは「他とは比べ物にならない最高のレベル」という意味の「Kölle Alaaf」。機会があればぜひ実物を見て欲しいですね。



Guten Tag
リア・ベアクスの
田川でリア住

ドイツからやってきた国際交流員(CIR)のリア・ベアクスさんが、ドイツの文化や田川での生活などを紹介します。

●ブログもリア住
リアさんがブログを始めました。
<https://tagawacir.wordpress.com/>

スマホ、携帯電話は
こちらから
QRコード→

